

【コーディネート・マッチング・ネットワーク機能について】

**コーディネート・マッチング**

市民活動支援センターは、市民のニーズや地域・社会の課題を、窓口での相談対応やアウトリーチ（ニーズや課題を把握するために積極的に出向くこと）により、あるいは関係機関との連携を通じて把握します。

人のため、社会のために役に立ちたいという意思を持つ市民や組織が、ボランティア活動や市民活動の実践につながるように支援します。ボランティア・市民活動は、制度上の支援やサービスとともに、大切な社会資源の一つと捉えます。

そうしたニーズや課題と、社会資源の機能・役割を十分にアセスメントしたうえで、適切にコーディネートし、両者のマッチングを図ります。その際には、市民が主体的に選択し行動できるように心がけて関わります。

ニーズや課題へ対応する適切な社会資源がなく、マッチングできない場合には、講座や学習などの機会を設けて新たな社会資源を開拓し、対応できるような体制を目指します。

マッチング後には、最適な取り組みが行われているか、進捗や結果をフォローし、次の支援に活かします。

コーディネーターが適切にコーディネートやマッチングできるように、研修等で技術習得や知識を得る機会を整えます。

また、地域の会合等への積極的な参加を通して、豊かな人脈を築くことを促します。

**ネットワーク**

ネットワークには、①市民同士（個人レベル）のネットワーク ②機関・組織同士のネットワーク ③ネットワーク同士のネットワークがあると考えます。

市民活動支援センターは、市民参加と地域における多様な組織や活動との連携・協働を心がけながら、プラットフォーム（出会いの場、協働・協議の場）をつくる役割と機能を果たし、ネットワークの形成を図ります。

これらのネットワークが多層的に機能し、市民のニーズや地域、社会の課題が効果的に解決されるように意識して関わり、支援します。

本法人の場合は、組織間のネットワーク、とりわけ町会や自治会といった地縁組織と、NPO やボランティアグループなどのテーマ型組織との連携やネットワークの構築を強みとしています。人間関係が希薄な地域社会では、極めて重要な要素であると考えます。

このようなコーディネート、マッチング、ネットワークの機能は、究極的には、災害時等の緊急事態の時にも、その役割を十分果たせるよう、日常的に備えておくことが重要であると考えます。